

## 研究概要の一般公開

### 研究課題名

ドセタキセル、シスプラチン、S-1 併用療法に不応・不耐進行胃癌に対するタキサン系薬剤または、イリノテカンの有効性に関する多施設共同後向き観察研究

### 研究の背景および目的

日本では胃がんはがんによる死因の第 2 位、がんの発生数では男性では第 1 位、女性では乳がん、大腸がんについて第 3 位となっています。進行し根治手術ができない胃がんや再発した胃がんに対しては抗がん剤による治療が行われますが、完治させることは困難です。このため症状緩和やより長く生きるようにすることが治療の目標となっています。現在有効性が期待されている胃がんの抗がん剤治療にドセタキセル、シスプラチン、S-1 という 3 つの薬剤を組み合わせた投与方法（DCS 療法）があり、将来進行胃がんの一般的な治療法になる可能性があります。最初の抗がん剤治療でがんが進行した場合、一般的にはイリノテカン、パクリタキセルという抗がん剤を二次治療として投与する場合がありますが、DCS 療法の後にどちらの抗がん剤を使用した方が良いかは現在分かっていません。本研究では胃がん患者さんの DCS 療法後に使用された抗がん剤の効果を調べることで、DCS 療法後の抗がん剤の選択に役立てようと考えています。

### 研究の対象

本研究の対象となるのは、2010 年 1 月 1 日から 2015 年 4 月 30 日までの間に国立がん研究センター中央病院および本研究に参加する多施設にて切除不能進行・再発胃がんに対して DCS 療法を施行されがんが進行した後にイリノテカンもしくはパクリタキセルもしくはアブラキサンが投与された患者さんです。

### 利用する情報

対象患者さんに対して、診療録の情報をを用いて以下の項目を調査します。

性別、胃がん組織の情報、胃がんの広がりに関する情報、DCS 療法以前の治療に関する情報、DCS 療法に関する情報、DCS 療法後の治療に関する情報等

### 研究担当窓口

国立がん研究センター中央病院 消化管内科/ 内科レジデント 高島 淳生/ 飯泉 桜

### 施設内研究責任者

国立がん研究センター中央病院消化管内科 朴 成和

### 個人情報の取扱い方法

この研究では個人情報は匿名化され、個人が特定されることはありません。

研究結果の発表に際しても、個人が特定されることはありません。

国立がん研究センター中央病院で治療され、この研究の対象となりうる方で、研究に診療録の情報を使わないでほしいというご希望があれば下記連絡先へご連絡ください。

国立がん研究センター中央病院 消化管内科高島 淳生/ 飯泉 桜

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

国立研究開発法人

国立がん研究センター中央病院

〒104-0045

東京都中央区築地 5-1-1

電話：03-3542-2511